

会議名：株式会社広域高速ネット二九六

2024年度 印西市・八街市・栄町・酒々井町 放送番組審議会

日時： 2025年2月13日（木）11:00-13:30

場所： 広域高速ネット二九六 通信技術センター会議室

■出席委員

浅尾 智康 委員 八街市教育委員会 教育長

小坂 明宮己 委員 酒々井町商工会 副会長

(酒々井町商工会 会長 大谷 文男委員 代理)

坂巻 栄一 委員 印西市商工会 会長

林 洋子 委員 酒々井町教育委員会 教育長

福田 守 委員 八街商工会議所 会頭

藤ヶ崎 功 委員 栄町教育委員会 教育長

安永 順子 委員 ボランティアグループ 「けやきの会」 代表

渡邊 義規 委員 印西市教育委員会 教育長

■株式会社広域高速ネット二九六 出席者

藤本 光弘 代表取締役社長

伊藤 完 常務取締役

藤本 健太郎 企画制作本部放送制作部 部長

兼子 喜幸 企画制作本部放送制作部 グループ長

番組視聴

■今年度制作・放送した番組

1. 第50回 日本ケーブルテレビ大賞番組アワード コミュニティ部門奨励賞 受賞
「新5,000円札の顔「津田梅子」～梅子が切り開いた女性活躍～」(44分番組)
2023年制作
2. 第50回 日本ケーブルテレビ大賞番組アワード 新人部門奨励賞 受賞
「365日、里親と動物を繋ぐカフェ～保護動物Café ねこのす～」(30分番組)

番組審議

■<浅尾 智康 委員>

① 特番「津田梅子」について

紙幣が新しくなるタイミングで津田梅子を取り上げる番組が多くあった中、現代女性の活躍に広げていったのは296独自の視点だと感じた。津田塾大学の卒業生だけでなく地元で活躍している方に目を向けたのが良かった。県立千葉女子高校の生徒を紹介していたが、県内の女子高校は2校という中で、女子教育を受けている生徒たちにスポットが当たった。津田スピリットと言われる、女性として活躍してくれたらという思いに共感した。津田梅子の功績と現在女性との繋がりでは、紹介された現代女性が津田塾大学出身者かと思う部分もあり、津田スピリットが津田塾大学出身者だけでなく現代女性全体に伝わって来たというような紹介があれば分かりやすかったと思う。

② 特番「ねこのす」について

店舗に知り合いがいたことが取材のきっかけだったそうだが、地域をよく取材しているので情報が集まり、保護猫の中でも「ねこのす」が選ばれたのだろうと感じた。日頃の取材力や、取り組みの成果だと思う。引き取りの場面や、里親に巡り合った後の様子まで紹介した番組構成が良かった。

■<小坂 明宮己 委員>

① 特番「津田梅子」について

津田梅子だけではなく現代に活躍する女性をピックアップして紹介しているところが良かった。

② 特番「ねこのす」について

引き取りに来る人の条件が60歳未満ということだが、60歳以上と思われる男性が引き取りに来ていた。家族構成など他にも条件があるのだろうと思った。

③ その他のご意見

実績報告の中で、野球が多いが、サッカーなど他のスポーツも取り上げてほしい。高校生など野球以外にも頑張っている皆さん多いのでスポットを当ててもらえたら励みになると思う。

■<坂巻 栄一 委員>

① 特番「津田梅子」について

非常に勉強になった。女性のパイオニアとして津田梅子が経験したことを番組にし、視聴者に広めることが、メディアとして大きな役割を果たしていると感じた。「Waffle がなくなる世界が理想だ」という言葉があったが、このような問題提起をしていくうちに世の中が変わっていくことがメディアの役割だと感じた。

② 特番「ねこのす」について

動物は法的には「もの」で、番組中でも「譲渡契約」という扱いがあった。これが今の社会のルールで、人間の所有物というような「引き取り」と言う言葉にも思うところがあったが、猫のオレンジちゃんの幸せそうな顔を見ていると、番組の終盤には良い話だという感想に至った。そうした様々なことを考えさせる問題提起として、このテーマを扱っているのだと感じた。

■<林 洋子 委員>

① 特番「津田梅子」について

本日は2本の番組を拝見して大変感動した。視聴後、思わず拍手したくなるくらい素晴らしかった。現代社会のニーズに答えた番組だと思う。「女子教育」、「ジェンダー」、「平等」をテーマに、現代社会の女性に繋がっていくという捉え方が素晴らしい。私も女子教育に携わる身として、教育の一端を担っているが津田梅子を見て、自分は何をしていくのかということを考えながら視聴した。

② 特番「ねこのす」について

テーマが「命」。この「命」も現代社会と繋がる部分が大いと思う。いずれにしてもテーマが視聴者の心に刺さる良い番組だった。2本の番組のディレクターからは「自分との繋がりを持って」という話があったが、そこが視聴者の心に刺さる部分で、心に刺さると視聴者の心や態度も変わると思う。見ている側の心に刺さることと、制作者が自分の生活に繋がって捉えているところが大変素晴らしいと思う。こうした番組はPRしてより多くの方に見てもらいたい。

■<福田 守 委員>

① 特番「津田梅子」について

新札発行のタイミングに佐倉にゆかりのある偉人津田梅子を取り上げたのはタイムリーで良い話題だった。番組の内容も地上波に負けにくいものだった。女性の地位向上のために頑張った人物で、世界的に見ると日本はまだまだ女性の活躍比率は少ないので、良いテーマだと思う。ただ、地元のケーブルテレビ局なので、もう少し津田梅子の地元のゆかりの部分を取り上げ、津田梅子をもっと深く掘り下げてほしかった。

② 特番「ねこのす」について

東金市は近いが、「ねこのす」の存在は知らなかった。場所もわかり、良かった。もう少し猫カフェの様子をゆっくり紹介しても良かったと思う。捨て猫や、殺処分されそうな猫を助ける活動は本当に大変だと思う。キャパシティもない、引き取り手もないということで困難が多いと思う。地元のケーブルテレビ局なので、地域に密着した話題を上手く掘り下げ、放送してもらえたらと思う。

③ その他のご意見

今はインターネットや YouTube など、見るものがたくさんあり、働いている人も多く、テレビを見る時間が限られる中で、選んで見てもらわないといけない。いかにアピールして、見てもらうかという PR にも力を入れてほしい。これからも地元を中心に話題を取り上げてもらえたらと思う。

■<藤ヶ崎 功 委員>

① 特番「津田梅子」について

1万円札の渋沢栄一についてはテレビ番組でもよく見た記憶があるが、津田梅子についてはそこまでではなく、取り上げられないなと思っていた。私は小学校の教員だったので、当初から女性が多い職場で、既に40年前から育休1年は当たり前、今では3年とる方もいる。また、少し前までは佐倉東高等学校が女子校だったので、その頃であれば佐倉のネタで構成を完結することも出来たかなと感じた。女子中高生はもちろん、小学校高学年の5,6年生にも是非見てもらいたい、教材にもなる作品だった。

② 特番「ねこのす」について

こちらは女性の方ばかりで男性がいないと気づいた。私も動物愛護の活動に関心を持っていこうと思った。いずれの番組も子どもたちの教材になる番組だった。

■<安永 順子 委員>

① 特番「津田梅子」について

津田梅子があの年齢でアメリカに渡り、よく頑張ってきたなと改めて感心した。津田梅子が切り開いた女性活躍の道を、分かりやすく紹介していて感激した。私自身も高校生の時、将来の職業に悩み、親に「女性にしかできない仕事があるでしょう」と言われた。親が勧めた職業は「看護師」と「歯科衛生士」だった。結局、私は歯科衛生士になるために学び、その後叔父の病院で勤めることになった。女性の細やかさなどを活かすことができ、歯科衛生士になって良かったと思う。また、現在は消防署にも女性消防官や女性救命士が増えている。もし機会があれば地元で家庭を持ちながら夜勤もこなしている女性消防官などにもスポットを当ててもらいたい。

② 特番「ねこのす」について

我が家も犬を飼っており、3代目で16歳、元気に走り回っている。日頃から飼った以上は最後までお世話をしなくてはいけないと思っている。ペットを飼うには、ワクチンや病院代など大変お金もかかるのでそういった部分も紹介してほしい。可愛いだけで飼うと様々な問題が起きてしまう。責任を持ってペットを迎え入れるためには、飼い主のしつけをすることも必要。また、番組では猫が幸せになる表情の変化をよく捉えていた。番組を見て、人間だけでなく生き物は幸せかどうか目や表情に出ると感じた。

両番組とも女性が企画したということを楽しそうに思う。番組制作で女性が今後も活躍することを期待している。

■<渡邊 義規 委員>

① 特番「津田梅子」について

資料に基づいて津田梅子に関わる史実をポイントごとに紹介し、その後現代に繋がる課題について触れた上で、身近な地元で活躍する女性を紹介していた。ストーンと腑に落ちる構成で、番組を通して問題提起がしっかりされていた。ナビゲーターに草野満代さんを起用された点も良かった。

② 特番「ねこのす」について

動物の命を題材に「命の大切さ」という点を取り上げていた。「ねこのす」の活動は初めて知ったが、昨年末に広島県の大久野島で多くの野生のうさぎが虐待されたという事件を思い出した。

2番組とも、ジェンダー平等や人権意識、命の大切さについて訴えている番組だった。私は中学校の社会科の教員だったので、こうした差別や戦争など、命に係わることをいつも取り上げていた。2番組ともに、中学校で見てもらいたい素晴らしい番組だった。差別や命を粗末にしないという点で、改めて義務教育の大切さを考えるきっかけになった。

以上